

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

お盆の観光シーズン、朝5時台JR白馬駅前が閑散としていた。昨年まで、土日等に運行していた新宿発の夜行列車が、今シー

ズンから全廃したのだ。高度成長期で東京に行く機会が多かった時期、限られた日程を有効に活用したいと夜行列車は本来に便利だった。新宿駅には、山や高原を目指して多くの皆さんが乗車してきた。松本駅で上高地や穂高連峰を目指す登山者が下車、このまま大北地域まで行ってほしいと何度思った事だったろう。私の実家が白馬駅近くであり、早朝に猿倉行のバスを待つ長蛇の列は懐かしい限りだ。登山者が、スマホ片手に本日の行動を検索。近年、(株)ヤマテンが情報提供す

る山の天気予報。全国18山域、59山の、山頂の天気予報を有料で案内。天気・気温・風向・風速の6時間単位を、翌々日までの期間の予報を、山岳気象に精通した気象予報士の解説コメントや大荒れ情報

山岳観光を存続させるための手段を決断しよう

今年、山関係で注目されたのが、山小屋へのヘリ運航だった。山小屋の物資輸送を請け負うヘリ会社が、相次ぐ故障や、墜落事故等の影響もあり、山小屋営業日までに荷揚げができない事態となった。

退などで山小屋が立ちいかなくなる前に論議する事は多いはずだ。多くの関係者に読んでほしい本「北アルプスの百年」がある。著者は、菊地俊朗さん。著書には、「白馬岳の百年」、「山の社会学」などがある。信濃毎日新聞社会部長や常務取締役を歴任。記者時代は、山岳遭難、山岳環境を追求した山岳関係の著名人だ。白馬岳一帯の民営と村営が山小屋建設で激突した歴史が綴られている。白馬岳でもピーク時には、10万人近い登山者が押し寄せた時代、「オラが山」を一企業に独占



早朝の閑散した白馬駅前・北アルプス総合案内所

させないとの感情は理解できて、現在置かれた山岳事情に、直民競い合って山小屋を存続させるべきなのか、過去の感情論を乗り越

えた方向性の論議と行動が求められている。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)